

アプローチとシステムイメージの妥当性について

2025-10-27 松島丈翔

前回の振り返り

- ・”自分の中に選択肢がなかった考えについて考える”方向性から
- ・”自分の中にある選択肢について表出化し, 吟味する”方向性へ

議論したいこと

- ・アプローチの妥当性
- ・システムができそうなことの妥当性
- ・システムイメージと中身の妥当性

理想像と初期状態の確認

理想像:

ある目標に対して, 自分で考え得る考え方・観点について吟味した上で選択する

初期状態:

自分で考え得る考え方・観点について十分に吟味することなく選択する

アプローチ

ある目標について自力で記述した方針やその論理に対して, システムが介入した後の思考の変遷(+結果の相違)を確認させることで”考え得る考えや観点について吟味することの重要性”に気づかせ, 意識の変容を目指す

アプローチの流れ

1. 学習者は自力で方針やその論理について記述する
2. 学習者の考え得る考え・観点を全て表出化させる
3. 表出化したもののうち、十分に考えられていなかった考え・観点について再度考えさせ、
方針やその論理について記述する
4. 学習者に思考の変遷(＋方針の変化)を振り返らせ、暗黙的に却下していた考え方・観点
について、”それらを吟味すること”と”却下する理由を明確化すること”の重要性に気づか
せる

シナリオの一例(”次回までに研究進捗を出す”ことを目標として方針を立てる場合)と各
フェーズでの学習者の状態

1. 現状の思考を整理し、下記のようなことを記述する
 - ・状況: アプローチについて考えている
 - ・現状の方針: 論文や書籍等を用いて適用できそうなものを探す
 - ・その他の選択肢:
 - ・可能性を感じているアプローチを具体化し、解像度を上げる
 - ・その他の選択肢を棄却している理由:
 - ・あまり良いものだと思っておらず、また論拠性や新規性について説明できる
ようにしておきたいから
2. 考え得る考え・観点を全て表出化する
 - ・表出化した考えや観点:
 - ・スケジュール的にあまり余裕がない
 - ・新規性や論拠性について考える必要性
 - ・現状を説明した上で他者に案を求める(アプローチの中身や方針について)
3. 表出化したものについて、吟味する
 - ・スケジュールの観点からは、考えつくアプローチを具体化したり、それを他者
に共有する方が妥当性のあるものが早く出来上がる。対して現状の方針は時間
がかかる。

- ・新規性や論拠性の観点からは、現状の方針がうまくいけば考えやすい。また、他者に案を求める方針についても良いものが提示される可能性がある。
- 対して、具体化する方針は後々考える必要がある。
- ・吟味した結果、現状ではスケジュールの観点が一番重要だと考え、”現状考えられているアプローチを具体化し、他者に共有する”という方針を採択するようにした

※活動の結果

- ・表出化した観点について考え、長短を明確化した
- ・表出化した方針についても同様に考え、その他の選択肢を明確に却下できるようになった

4. 思考の変遷(+結果の変化)について振り返り

- ・結果が異なっている場合、活動を行わなければ危険性があつたことを認識
- ・考え得る観点から考えた方針の選択理由やその他の選択肢の却下理由が明確化され、論理的に説明できるようになっていることを認識

システムができそうな部分

- 方針やその論理について記述する環境(1, 3)
- 思考の変遷の記録と可視化(3, 4)
- 学習者の考え得る考え・観点を全て表出化させる(2)

※cについて、どのような支援があるかが思いついていない。支援なしで学習者に活動を行わせることは負荷が高い、あるいはできる人は元々やっているのではないかと考えるため、何らかの支援をする必要性は感じている。

システムイメージ

- 川システムにおける思考整理機能のようなイメージ

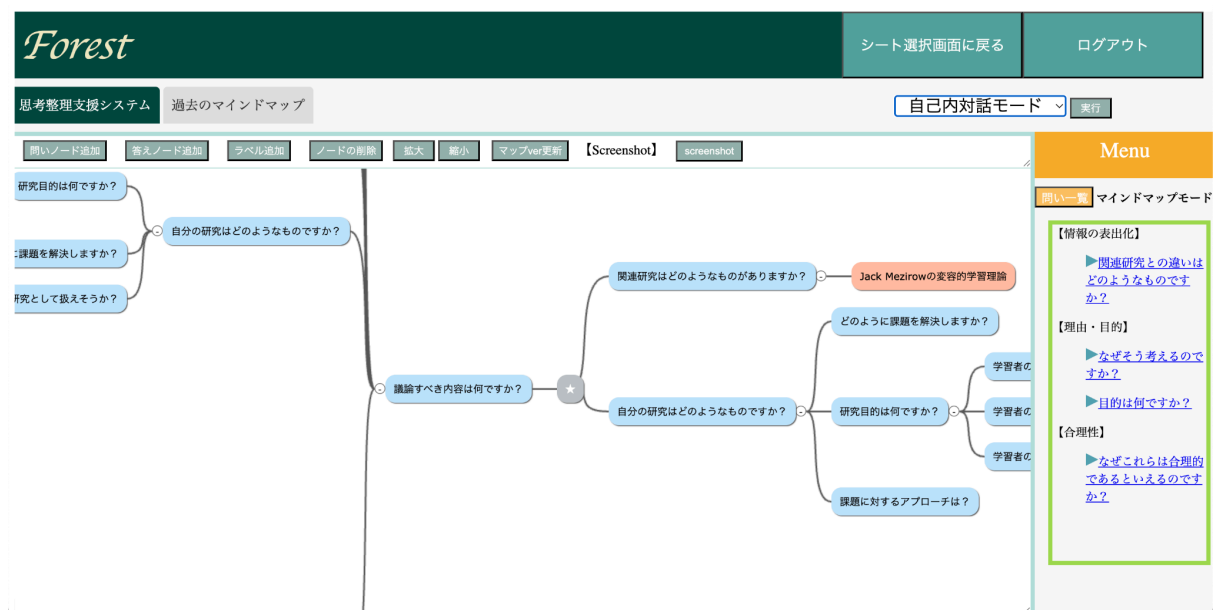
- b. 川システムにおける整理された思考のスナップショットを記録・可視化するようなイメージ
- c. 検討中

システムの中身

- a. 機能的には現状の川システムで基本的には事足りると考えるが、文脈やデザインが異なるため、本研究に沿う形で変更する可能性はある。
- b. aと同様
- c. 検討中

システムのイメージ図

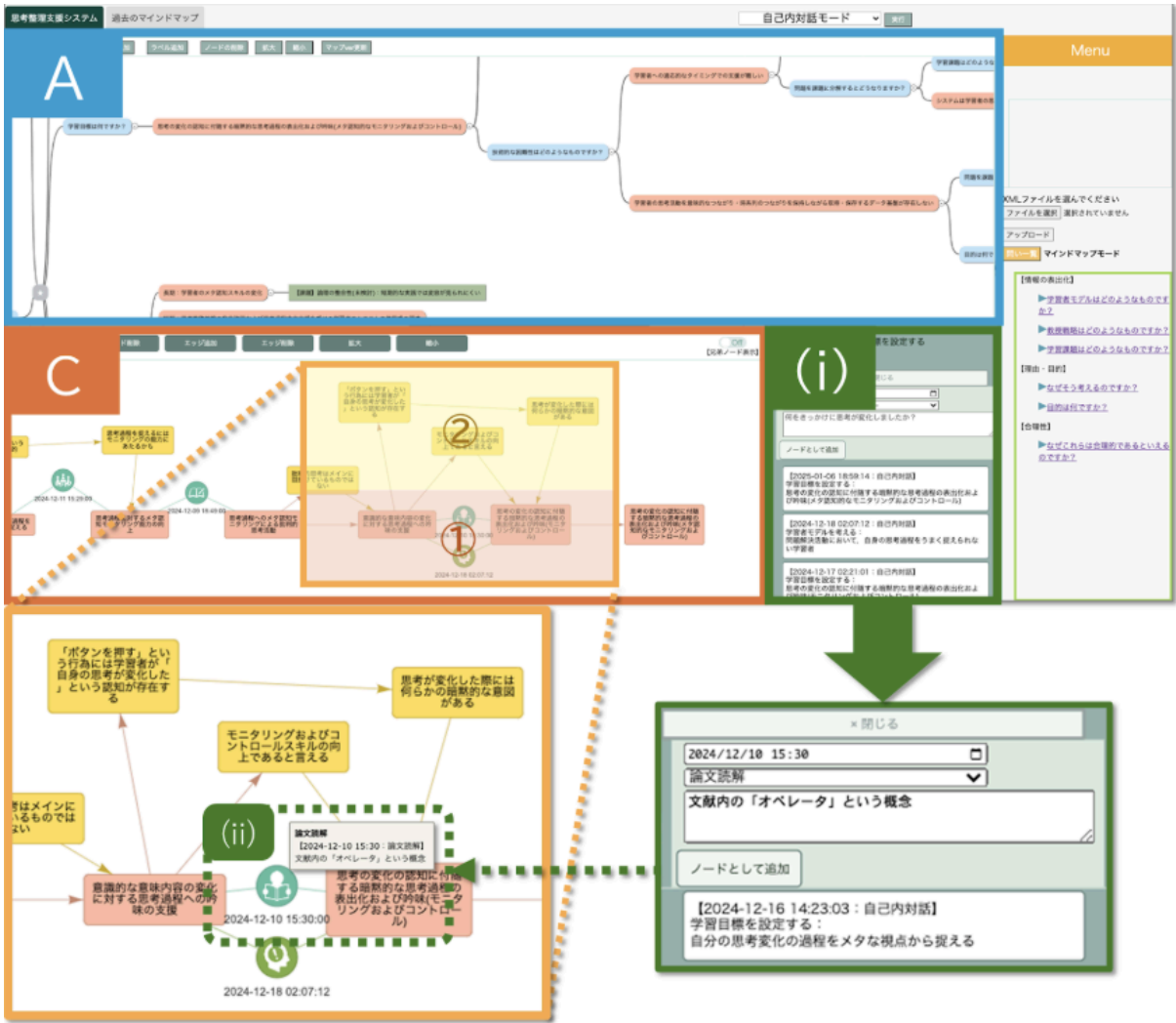
方針やその論理について記述する環境



※懸念点

- ・現状の自分の考えについて記述してもらいたいが、思考整理をどこまで支援するか？
- ・思考を整理させる過程で、十分に考えていなかったことについても考える機会と
ならないか？
- ・問い一覧をどこまで出すか？

思考の変遷の記録と可視化



※懸念点

・川のシステムではノードごとにバージョンを記録していると思うが、本研究ではこれは最適か？

本研究の活動ではノード自体が頻繁に変化するというよりはノードが追加されていくという性質や、方針やその論理の相対的な意味(メリットデメリットなど)が変化するという性質が大きいと思われるため